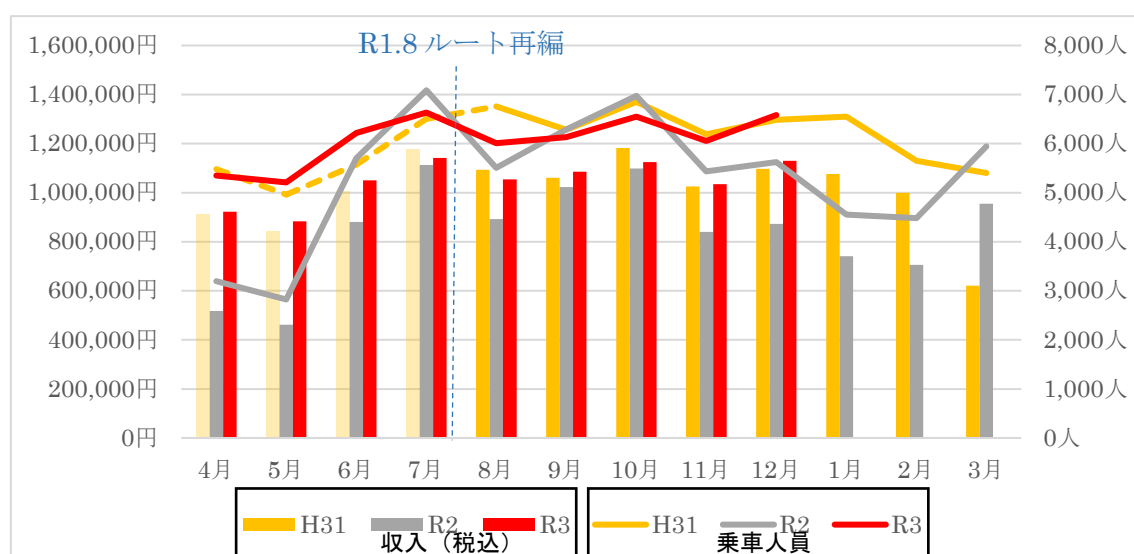


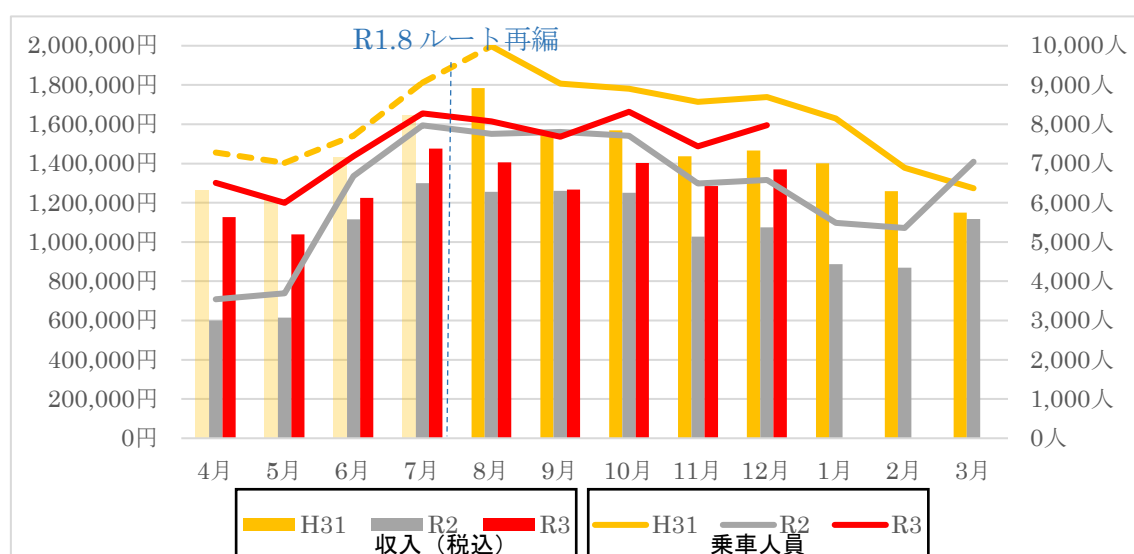
くるりんバスの運行状況について

乗車人員等について

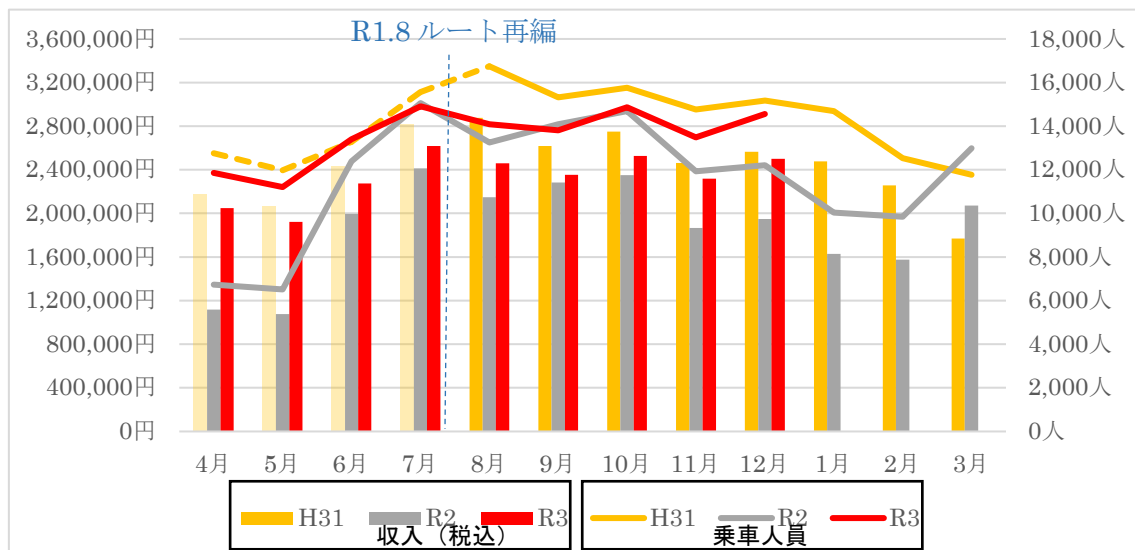
平成31年度から令和3年度の西砂ルート、錦ルートと全体の収入、乗車人員について、以下のグラフ1～3のとおりとなりました。令和2年4月、5月の緊急事態宣言時に乗車人員が大きく落ち込み、それ以降も緊急事態宣言時やまん延防止等重点措置期間の落ち込みがみられますが、令和3年度の各月の乗車人員は、おおむね令和2年度と比べて3%前後の増となっています。令和元年8月～12月と令和3年の同時期を比較すると約9%の減となっています。



グラフ1：収入、乗車人員（西砂ルート）



グラフ2：収入、乗車人員（錦ルート）



グラフ 3：収入、乗車人員（全体）

収支率について

ルート再編後、令和 2 年 3 月までの全体の収支率は 32.0%で、新型コロナウイルス感染症の影響で令和 2 年度は 26.3%と大きく落ち込みましたが、その後回復が見られ令和 3 年度は 30%前後で推移しています。

ルート再編後のルート別の収支率は、西砂ルートで平成 31 年度 25.7%、令和 2 年度 22.2%、錦ルートで平成 31 年度 39.0%、令和 2 年度 30.9%と全体の収支率と同様にコロナの影響で令和 2 年度は大きく落ち込みましたが、その後回復が見られ西砂ルート 25%前後、錦ルート 35%前後で推移しています。

運行継続基準に基づく実証運行の検証について

運行継続基準に基づく実証運行の検証について、令和 3 年度第 2 回立川市地域公共交通会議で、以下の通りご承認いただきました。

- ・錦ルートについては、新型コロナウイルス感染症による影響下においても継続的に収支率が運行継続基準である 30%を超えており、また、今後も安定した運行が見込まれるため、運行を継続する。
- ・西砂ルートについては、継続して運行しつつ、利用者増など収支率の改善策についても検討する。
- ・西砂地域から地域ニーズに合った移動手段や高齢者の移動など福祉の視点での検討を求める声があることから、地域住民と連携し地域ニーズを踏まえ

た交通手段の検討を行う。

また、承認にあたり以下の通り、付帯意見をいただきました。

1. PDCA サイクルについて、収支率 30%という運行継続基準の見直しを含めた検討が必要である。
2. 地域公共交通計画策定を見据えた検討が必要である。
3. コスト削減の工夫を継続する。
4. 地域住民と行政が連携して検討を進める。

【ご意見をお寄せください】

付帯意見の1については、平成28年度に策定し、これに基づいて運行継続を判断していた「立川市コミュニティバス（くるりんバス）再編計画」を変更するものとなることから、運行継続基準や運用のあり方などについて、改めて委員の皆様のご意見をお聞かせください（書面意見書にご記入をお願いいたします）。

付帯意見の3、コスト削減につきましても、良い案がございましたらご意見をお願いいたします。